

大阪医科大学学報

第31号 平成9年2月



八丁松原からの風景

◆目

年頭所感	2
規程改正	3～4
人事〔採用、退職、昇任、異動〕 〔委嘱・解嘱、海外渡航〕	4～6
学位記授与	7
医学会秋季学術講演会	8
表彰関係	8
教室紹介	9

◆次

医学の散歩道	10
海外出張記	11
会議・行事予定	12～13
学内行事	13
スギ花粉情報センターについて	13～14
保健管理室からのお知らせ	14～15
俳句	15
たかつき散策	16

年 頭 所 感

学 長 藤 本 守



新年明けましておめでとうございます。皆様には、本年も佳いお年でありますように念じております。

昨年は、エイズ薬害問題、病原性大腸菌O-157集団食中毒事件など、医学社会を揺るがす大事件が発生しましたが、幸い、本学ではこれらに大きく影響されることなく、医育機関として初期の事業計画通り、順調な実績を積んで参りました。特に、診療教授・診療助教授制などによる教員人事の充足、教育施設としてハイビジョン映像設備、

病院近代化の一環として病院機能の電算化などが手掛けられ、病院西側の増改築を始め、施設では、保健管理室、病院情報室、中央手術部など、将来センター的に発展すべき部門の拡充が図られて参りました。

さて、本年は大学にとって創立70周年という大きな節目を迎えています。私達は、本学の歴史的イメージを内外に知らしめるべきまたとないチャンスであると考え、記念式典や記念事業等を企画して、大学の活性化に役立てようとしております。

なお、今年度末には、長年多大のご功績のあった微生物学 中井益代教授、一般・消化器外科学 岡島邦雄教授、神経精神科学 堺 俊明教授、リハビリテーション・センター 富永通裕教授、中央検査部 友田恒典教授が定年で退任されます。次いで、4月からは、過去数年来懸案の「カリキュラム改革」が実施されます。同時に教育施設の拡充、大学の学科新設なども期待される段階です。関係各位には何かとご苦勞をお掛けしますが、よろしくご協力の程お願い致します。

さらに、本学の経済基盤の確立と高度医療の推進に備えて、附属病院の拡充を含めた病院経営の改善策が図られますが、その為には、電算化を契機に、近代の社会情勢に則した組織作りを図る必要があると思われまます。

また、世はまさにグローバルな時代であり、本学でも国際化・社会化・情報化に対して柔軟な対応が望まれます。本学が来世紀に向けて優秀な大学として生き残るために、社会の要求に対する受け皿となる組織を拡充せねばなりません。これらの点で皆様の絶大なご協力を必要とします。

年頭にあたり、以上の幾つかの要件に関しまして、皆様の一層のご理解・ご協力の程を重ねてお願いする次第であります。

看護専門学校学則中一部改正について

保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の3年課程の教育課程等に関する部分を改正する省令が交付されたことに伴い、看護専門学校学則第8条が下記のとおり改正されました。

学則新旧対照表

	新	旧
第8条	<p>(授業科目並びに単位数及び授業時間数)</p> <p>本校の授業科目並びに単位数及び授業時間数は、別表1-1及び別表1-2のとおりとする。</p> <p>2 授業科目の単位数は1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。</p> <p>1 講義及び演習については、15時間から30時間をもって1単位とする。</p> <p>2 実験・実習及び実技については、30時間から45時間をもって1単位とする。</p> <p>3 臨地実習については、45時間をもって1単位とする。</p>	<p>(学科目及び授業時数)</p> <p>本校の学科目及び授業時数は、別表1のとおりとする。ただし学校長は別表1に定める学科目及び授業時間数を変更することができる。</p>
附則	<p>1. この改正は、平成9年4月1日から施行する。</p> <p>但し、平成8年度以前から在学する者については、改正後の第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。</p>	

新						旧										
別表1-1 第一看護学科授業科目及び単位数						別表1 学科目及び授業時間数										
区分	教育内容	授業科目	卒業単位数	学年及び単位数(時間数)				区分	科目	卒業時等	第一看護学科					
				1年	2年	3年	計				1年	2年	3年	計		
基礎分野	科学的思考の基盤	倫理的思考	13	1			1 (30)	基礎科目	90	30			30	30		
		情報科学		1	1		2 (45)					30	30			
		外国語(英語)		2	1	1	4 (120)					30	30			
基礎分野	人間と人間生活の理解	社会学	13		1		1 (30)	基礎科目	60				30	30		
		心理学		1			1 (30)					30	30			
		教育学			1		1 (30)				生活科学	30			30	
		人間関係論		1			1 (30)					人間工学	30			30
保健体育(実技含む)	2			2 (45)												
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	22	4			4 (120)	専門基礎科目	590	30				30		
		代謝栄養学		1	1		2 (45)							120		
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学		4	2		6 (180)				医学概論	120	30			
微生物学	2			2 (45)	生化学	30				30						
薬理学	1	1		2 (45)			栄養学	30		30					30	
専門基礎分野	社会保障制度と生活者の健康	保健医療論	22	1					1 (15)	生化学(含栄養学)	45	45				45
		公衆衛生学			2		2 (30)	薬理学	30							30
		社会福祉			1	1	2 (30)						病理学Ⅰ	125		
関係法規			1	1	1 (15)	病理学Ⅱ	45				45					
														30	30	
													30	30		
													30	30		
													45	45		

専 門 分 野	基礎看護学	看護学概論 基礎看護技術 看護方法総論	38	1	1	2 (45)	
				6		6 (165)	
				2		2 (60)	
	在宅看護論	在宅看護論概論 在宅看護方法		1	3	1 (15) 3 (90)	
	成人看護学	成人看護学概論 成人看護方法		1	4	1 (30) 5 (135)	
	老年看護学	老年看護学概論 老年看護方法		1	2	1 (15) 3 (75)	
	小児看護学	小児看護学概論 小児看護方法		1	3	1 (30) 3 (75)	
	母性看護学	母性看護学概論 母性看護方法		1	2	1 (15) 3 (90)	
	精神看護学	精神看護学概論 精神看護方法		1	2	1 (15) 3 (75)	
		看護研究			1	1 2 (60)	
	臨地実習	基礎看護学 在宅看護論 成人看護学 老年看護学 小児看護学 母性看護学 精神看護学	23	1	2	3 (135) 2 2 (90) 3 5 8 (360) 2 2 4 (180) 2 2 (90) 2 2 (90) 2 2 (90)	
合 計				96	41	35	20 96(2910)

専 門 科 目	基礎看護学	945	15	220	50	10	45				
	看護学概論							35	45		
	基礎看護技術							113	113		
	基礎看護技術演習							82	82		
	臨床看護総論							52	52		
	臨床看護演習							8	8		
	成人看護学							15	15		
	成人看護概論									15	15
	成人保健									30	30
	成人臨床看護										220
	成人臨床看護演習										50
	老人看護学							15	15		
	老人看護概論									15	15
	老人保健									40	40
	老人臨床看護									20	20
	老人臨床看護演習										
	小児看護学							15	15		
	小児看護概論									15	15
	小児保健									30	30
	小児臨床看護									35	35
小児臨床看護演習		40	40								
母性看護学	15	15									
母性看護概論			15	15							
母性保健			30	30							
母性臨床看護			45	45							
母性臨床看護演習		30	30								
看護研究	70	25	45	70							
臨床実習	1035	240	390	135	135						
基礎看護Ⅰ						5	5				
基礎看護Ⅱ						100	100				
基礎看護Ⅲ							30	30			
成人看護							630	630			
老人看護											
小児看護		135	135								
母性看護		135	135								
合 計		3030	1060	1035	935	3030					

※ 第二看護学科の授業時間等については改正していない



給与規則の一部改正

給与規則中の家族手当に関する支給額が下記のとおり改正されました。

- 第5条第4号中「2,800円」を「3,300円」に改める。
- この改正は平成9年1月21日から施行し、平成8年4月1日から適用する。

この改正は満15才に達する日後の最初の4月1日から満22才に達する日以後の最初の3月31日までの間にある扶養家族たる子のある教職員が対象となります。

通勤手当支給規程の一部改正

通勤手当支給規程の支給額が下記のとおり改正されました。

- 第2条第1項中「45,000円」を「50,000円」に改める。
- この改正は、平成9年1月21日から施行し、平成8年4月1日から適用する。

この改正により通勤手当支給限度額が引き上げられました。

人 事

〔採用〕

嘱 託	藤川 光昭 (財務部会計課)	11.28
助 手	松川 雅則 (脳神経外科学)	12.16
助 教 授	宋 景富 (薬理学)	1. 1
助 手	河野 龍而 (内科学Ⅲ)	〃
〃	西村 光 (〃)	〃
〃	細見 和代 (神経精神医学)	〃
〃	森川 潤一 (整形外科学)	〃
〃	伊藤 尚 (耳鼻咽喉科学)	〃
〃	大日向由光 (〃)	〃
〃	林 伊吹 (〃)	〃
〃	宇都宮啓太 (放射線医学)	〃
〃	大竹 義章 (中央検査部)	〃
技 術 員	野口 和美 (輸血室)	〃
技 術 員	山口やよい (輸血室)	〃
助 手	日外 知行 (ICU)	1.16

〔退職〕

看 護 婦	麻生 千晶 (病院看護部)	11.30
〃	河合 美花 (〃)	〃
〃	林 志保 (〃)	〃
学 内 講 師	澤田 健 (病理学Ⅱ)	12. 4
事 務 員	竹橋 明美 (中央検査部)	12.15
〃	原田 真樹 (病院事務部 医事第一課)	〃
学 内 講 師	北 祥男 (内科学Ⅲ)	12.31
〃	永田 裕人 (整形外科学)	〃
助 手	植山 正邦 (内科学Ⅲ)	〃
〃	稲山 靖弘 (神経精神医学)	〃
〃	貞岡 達也 (耳鼻咽喉科学)	〃
〃	中井 健 (〃)	〃
〃	山本 博史 (〃)	〃
〃	小倉 康晴 (放射線医学)	〃
〃	金 信行 (産婦人科学)	〃
〃	金原 稔幸 (中央検査部)	〃
事 務 員	平野 明美 (病院事務部 医事第一課)	〃
看護事務員	村岡千恵子 (病院看護部)	〃
技 術 員	中村 淑子 (病院事務部 栄養給食課)	〃
〃	中島 涼子 (輸血室)	〃
〃	松村 聡美 (〃)	〃
〃	竹橋 正則 (中央検査部)	〃
臨床指導者	岩坪ゆう子 (病院看護部)	〃
看 護 婦	吉岡 充子 (〃)	〃
助 手	村上 茂樹 (ICU)	1.15
技 術 員	野口 和美 (輸血室)	1.20
講 師	丸川 治 (解剖学Ⅰ)	1.31
助 手	橋本 美実 (麻酔科学)	〃

事 務 員 勢川 陽子 (病院事務部
医事第二課) 1.31

〔昇任〕

病院事務部 施設課長補佐	荻谷 利夫 (施設課主任)	11. 1
〃	〃	〃
施設課主任	榎本 宣史 (施設課技能員)	〃
病院薬剤部 薬剤課主任	北川 俊史 (薬剤課技術員)	〃
〃	〃	〃
製剤薬品情報課主任	鈴木 薫 (製剤薬品情報課技術員)	〃
財 務 部 会計課長補佐	藤川 光昭 (会計課嘱託)	11.28
耳鼻咽喉科 診療教授	牧本 一男 (助教授)	1. 1
病 理 学 I 講 師	小田 幸作 (助手)	〃
放 射 線 科 診療助教授	河合 武司 (講師)	1.16

〔異動〕

病院看護部
看護事務員 萩田 聡子 (病院事務部
医事第一課事務員) 10. 1

〔委嘱・解嘱〕

学内講師		
助 手	奥 英弘 (眼科学)	11.16
〃	兜坂 法文 (〃)	〃
〃	石橋 孝嗣 (一般・消化器外科学)	1. 1
〃	豊田 昌夫 (〃)	〃

BULLETIN OF THE OSAKA MEDICAL COLLEGE

編集委員会委員		
教 授	大槻 勝紀 (解剖学Ⅰ)	12.18
〃	窪田 隆裕 (生理学Ⅱ)	〃
〃	鏡山 博行 (医化学)	〃
〃	芝山 雄老 (病理学Ⅰ)	〃
〃	河野 公一 (衛生学・公衆衛生学)	〃
〃	河村慧四郎 (内科学Ⅲ)	〃
〃	玉井 浩 (小児科学)	〃
〃	勝岡 洋治 (泌尿器科学)	〃
〃	清水 章 (病態検査学)	〃
〃	田嶋 定夫 (形成外科学)	〃

同上委員長
教 授 河村慧四郎 (内科学Ⅲ) 12.18

教員組織運営委員会委員		
学 長	藤本 守	12.18
学 生 部 長	鏡山 博行 (医化学)	〃
教 授	〃	〃
附 属 病 院 長	佐々木進次郎 (胸部外科学)	〃
教 授	〃	〃
図 書 館 長	清金 公裕 (皮膚科学)	〃
教 授	〃	〃
事 務 局 長	多田 敷義	〃
〃	〃	〃
大 学 院 小 委 員 長	宮崎 瑞夫 (薬理学)	〃
教 授	〃	〃

教員人事に関する 委員会委員長 教授	東 郁郎 (眼科学)	12.18
進学課程主事 教授	山崎 隆司 (ドイツ語)	〃
教授	岩崎 尚彦 (生物学)	〃
〃	森 浩志 (病理学Ⅱ)	〃
〃	河村慧四郎 (内科学Ⅲ)	〃

一般・消化器外科学講座担当教授選考委員会委員

助手	田中 康敬 (放射線医学)	1. 1
----	---------------	------

創立70周年記念事業実行委員会委員

学 長	藤本 守	1.21
理 事	吉田 康久	〃
学生部長 教授	鏡山 博行 (医化学)	〃
附属病院長 教授	佐々木進次郎 (胸部外科学)	〃
図書館長 教授	清金 公裕 (皮膚科学)	〃
附属看護 専門学校長 教授	堺 俊明 (神経精神医学)	〃
教授	島田 眞久 (解剖学Ⅱ)	〃
〃	河野 公一 (衛生学・公衆衛生学)	〃

事務局長 多田 数義

同上委員長

理 事	吉田 康久	1.29
-----	-------	------

創立70周年記念式典実行委員会委員

理 事	吉田 康久	1.21
教授	島田 眞久 (解剖学Ⅱ)	〃
〃	植木 實 (産婦人科学)	〃
助手	山本 隆一 (中央検査部)	〃
総務部長代理	坂本 詔志	〃

同上委員長

理 事	吉田 康久	1.21
-----	-------	------

盛学術振興基金運営委員会委員

理 事	東 郁郎	1.21
附属病院長 教授	佐々木進次郎 (胸部外科学)	〃

解 嘱

一般・消化器外科学講座担当教授選考委員会委員

助手	豊田 昌夫 (一般・消化器外科学)	12.31
----	-------------------	-------

本学創立70周年記念事業準備委員会委員

学 長	藤本 守	1.20
学生部長 教授	鏡山 博行 (医化学)	〃
附属病院長 教授	佐々木進次郎 (胸部外科学)	〃
図書館長 教授	清金 公裕 (皮膚科学)	〃
教授	島田 眞久 (解剖学Ⅱ)	〃
教授	河野 公一 (衛生学・公衆衛生学)	〃

盛学術振興基金運営委員会委員

理 事	美濃 眞	1.20
教授	中井 益代 (微生物学)	〃

〔海外渡航〕

片山 博視 (小児科学助手)	
アメリカ (ノースキャロライナ)	8. 11. 6 ~ 8. 11.12
河村慧四郎 (内科学Ⅲ教授)	
アメリカ (ニューオリンズ)	8. 11. 9 ~ 8. 11.16
弘田 雄三 (内科学Ⅲ助教授)	
川上 佳秀 (〃 助 手)	
酒井 泰彦 (〃 〃)	
アメリカ (ニューオリンズ)	8. 11. 9 ~ 8. 11.17
寺崎 文生 (内科学Ⅲ助手)	
アメリカ (ニューオリンズ)	8. 11. 9 ~ 8. 11.15
陰山 克 (内科学Ⅱ診療教授)	
マレーシア (ベナン)	8. 11.16 ~ 8. 11.21
北 祥男 (内科学Ⅲ学内講師)	
ドイツ (フランクフルト)	8. 12. 2 ~ 8. 12. 8
岡島 邦雄 (一般・消化器外科学教授)	
ギリシャ他 (アテネ他)	8.12. 4 ~ 8. 12.14
中井 益代 (微生物学教授)	
後藤 俊幸 (〃 講 師)	
中野 隆史 (〃 学内講師)	
タイ (ハジャイ)	8. 12. 8 ~ 8. 12.13
森下 忍 (整形外科学講師)	
アメリカ (オランダ)	8. 12.10 ~ 8. 12.16
堺 俊明 (神経精神医学教授)	
オーストラリア (クイーンズランド)	8. 12.25 ~ 9. 1. 7
佐々木進次郎 (胸部外科学教授)	
麻田 邦夫 (〃 助教授)	
台湾 (台北)	9. 1. 9 ~ 9. 1. 13
田嶋 定夫 (形成外科学教授)	
アメリカ (ユタ)	9. 1. 14 ~ 9. 1.21
東 治人 (泌尿器科学助手)	
アメリカ (ハーバード大学)	9. 1. 22 ~ 9. 4. 12
奥田 龍三 (整形外科学助手)	
オーストリア (ザルツブルグ)	9. 1. 25 ~ 9. 2. 2
帰 学	
小川 竜介 (脳神経外科学助手)	
アメリカ (バージニア大学)	6. 8. 15 ~ 8. 11.14
留 学	
和辻 利和 (泌尿器科学助手)	
名古屋大学	8. 9. 1 ~ 9. 3. 31
滝内比呂也 (内科学Ⅱ助手)	
アメリカ (テキサス大学)	8. 11. 5 ~ 9. 4. 30
田中 嘉雄 (形成外科学助教授)	
オーストラリア (オプライエンマイクロサージカルインスティ チュート)	9. 1. 1 ~ 9. 12.31 延長

平成8年度（第2回）学位記授与

今回は15名の申請につき所定の審査が行われました。その結果、平成8年12月4日付をもって、14名に対し博士（医学）の学位が授与されました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第727号	藤 芳 直 彦	生体溶液の pH 緩衝機構の回路網表現による解析
乙第728号	後 藤 功	Enhancement of Sensitivity of Human Lung Adenocarcinoma Cells to Growth-inhibitory Activity of Interferon- α by Differentiation-inducing Agents (分化誘導物質によるインターフェロン α のヒト肺腺癌細胞株に対する細胞増殖抑制作用の増強)
乙第729号	岩 崎 義 弘	白内障術後の水晶体前囊収縮に関与する因子の検討
乙第730号	小田原 史 知	Human antibodies responsible for binding inhibition and polymerization inhibition of human immunodeficiency virus type 1 reverse transcriptase (HIV-1 逆転写酵素の結合阻害とポリメラーゼ阻害に対するヒト抗体の反応性)
乙第731号	石 井 克 尚	NATURAL HISTORY AND LEFT VENTRICULAR RESPONSE IN CHRONIC AORTIC REGURGITATION (慢性大動脈弁閉鎖不全症の自然歴と負荷に対する左室の応答)
乙第732号	下 山 寿	Effects of Long-Term Therapy with Enalapril on Severity of Functional Mitral Regurgitation in Dogs with Moderate Heart Failure (犬心不全モデルにおける機能的僧帽弁閉鎖不全の程度に対するエナラプリル長期投与効果について)
乙第733号	藤 岡 重 和	Molecular detection and differentiation of enteroviruses in endomyocardial biopsies and pericardial effusions from dilated cardiomyopathy and myocarditis (拡張型心筋症と心筋炎患者の心内生検心筋および心膜液におけるエンテロウイルスゲノムの検索と型識別)
乙第734号	豊 田 昌 夫	大腸癌における HLA 抗原発現状態と癌進展に関する研究
乙第735号	藤 井 敬 三	阻血肝障害に対するカルシウム拮抗剤 (diltiazem) の肝保護効果に関する実験的研究
乙第736号	野 村 栄 治	阻血・再灌流性肝障害に対するクエン酸の肝保護効果に関する研究
乙第737号	渡 辺 一 三	大腸癌隣接粘膜における免疫組織学的研究 -とくにアポトーシス関連遺伝子産物の発現とその意義について-
乙第738号	泉 信 行	胃癌の発育・進展における肝細胞増殖因子 (HGF) に関する研究
乙第739号	福 本 信 介	肝細胞癌の分化度からみた癌結節内の血洞について -電子顕微鏡的および免疫組織学的検討-
乙第740号	川 田 誠 一	Comparative study on <i>Leibhaftige Bewußtheit</i> in temporal lobe epilepsy and schizophrenia (側頭葉てんかんと精神分裂病における実体意識性の比較研究)

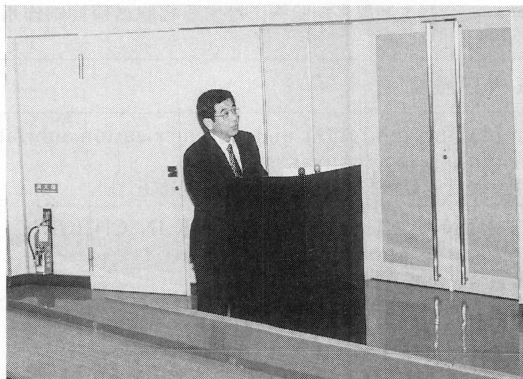
平成8年度
秋季第2回学術講演会

日時 平成8年11月13日(水)午後2時～6時
場所 臨床第一講堂

特別講演

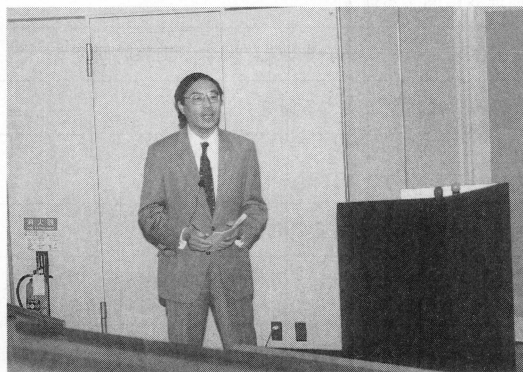
『腎癌におけるエリスロポエチン産生とその機序』
泌尿器科学教授

勝岡 洋治



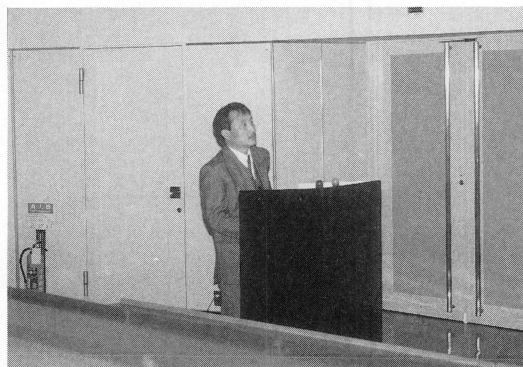
『有害物質取扱い作業者の健康管理』
ーフッ化水素(HF)作業者の症例を中心にー
衛生学・公衆衛生学教授

河野 公一



『スギ花粉症の外因について』
ーヒトIgE抗体産生から疫学までー
耳鼻咽喉科学教授

竹中 洋



大阪府知事表彰受賞

10月23日(水)新阪急ホテルで開催された「大阪府理学療法士会創立30周年記念式典」において、永年の地域医療および理学療法活動に対して、リハビリテーションセンター小田省三技師長が大阪府知事賞を受賞されました。

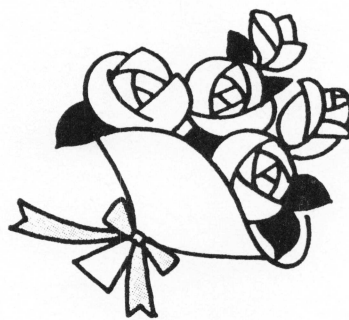
厚生大臣表彰受賞

永年に亘り、地域医療と看護活動に多大な貢献があったとして、11月16日(土)東京プリンスホテルで開催された「日本看護協会創立50周年記念式典」において、勢川瑠美子看護部長が優良看護職員表彰を受賞されました。



文部大臣表彰受賞

11月18日(月)ホテル・フラシオン青山(東京)において、本学附属病院において医療業務に長く携わり、功労のあった、リハビリテーションセンター八幡元清技師長補佐に対し、文部大臣から医学教育等関係業務功労者の表彰がありました。



教 室 紹 介

皮膚科学教室

—皮膚疾患は内的病変の現れ—

皮膚科学教室は昭和4年に皮膚泌尿器科学教室として開講され、昭和32年皮膚科と泌尿器科の講座が分離独立した。二講座分離時の皮膚科学講座の教授は栗原善夫先生が担当され、昭和49年安原稔教授が引き継がれた。さらに平成5年に清金公裕教授が就任してから、はや4年が過ぎようとしている。現在の構成員は教授以下、助教授1名、講師1名、助手5名、研修医5名、専攻医12名（うち関連病院出向者6名）、大学院生5名、非常勤講師3名である。

教室の皮膚科学に対する考え方は、皮膚疾患は内的病変の皮膚への現れでありその意味から皮膚科学は内科の一分野であるとの考えの基に立っている。従って皮膚科学は皮疹の形態学、病理学、微生物学、免疫学、生化学、

専門医制度で一貫治療

臨床・研究に内外連携の実

生理学、遺伝学等あらゆる知識の上に立って、初めて皮膚疾患の本態を探りうる学問であると考えている。また臨床面では手術の治療が大きなウエイトを占めており、皮膚外科の一面も非常に重要である。形成外科へのローテーションも含め手術手技の向上に常に努めている。このような観点に立って臨床面も研究面も、各科各教室との連携を大切に幅広い分野にわたって教室員一同、取り組んでいる。

外来診療態勢は、新患は必ず教授、助教授、講師が診察して診断および治療方針を指示し、以後は主治医を決めてその主治医が一貫して患者の診察治療に当たっている。患者が入院した場合も外来主治医が入院主治医となり一貫した方針で治療に当たるようにしている。

教室の研究テーマは栗原教授以来の「皮膚腫瘍の発生病理の研究」を押し進めて上皮系、間葉系皮膚腫瘍における光顕的、電顕的、免疫組織化学的検索、in situ hybridization、さらに癌遺伝子、癌抑制遺伝子等の分子生物学的検討へと発展させている。また human papilloma virus と疣贅状皮膚腫瘍との関連についても上記手法を用いて検討している。さらに清金教授は皮膚真菌症も専門としており、その host-parasite relationship の検討を行っている。一方で各大学院生は解剖学教室や病理学教室に在籍して共同研究を進めている。

日本皮膚科学会の制定する、皮膚科専門医制度は皮膚科学が内科や外科の付け足しの学問ではないことを強調



すると共に皮膚科医の質的向上をはかり、皮膚病患者にとってもメリットがあるようにしたいという考えから実施されることになったものである。この意図にそって、本学において皮膚科を研修する人には専門医資格取得を目的とした指導をしている。

その他、教室の同門会である「西風会」が年1回開催され珍しい症例の供覧などを教室員が行って参加の先生方と意見交換し、親睦を深めている。また北摂地域に勤務ないし開業されている皮膚科医の先生方と「北摂皮膚科医会」を年1回開催し、講師の先生を招いての学術講演や経験症例の供覧により会員相互の学識交換を行うと同時に地域における病診連携を円滑にすすめる努力をしている。

(文責 酒谷)

医学の散歩道

Heute noch ist die Sektion das
Fundament der Medizin ?

第2 病理学教授

森 浩 志

先日、新聞の読者欄に「尊厳無視する大学の解剖医」と題して、解剖医の態度（内容から判断して病理学教授の病理解剖）を批判する投書が載っていた。「仏さんを前にして厳粛な雰囲気の中で行われると思っていたのに、医師は笑いながらモノを扱おうようにして解剖していた。病に苦しんだ患者さんと看病した家族の思いが届いていない。このような教授に指導される医学生はどのような医師になるのか？」というお叱りである。長年、病理解剖を行っている、学生や駆け出しの時代に感じていた厳粛さが薄れて、ともすれば業務としてモノを扱っているのではないかと自省はするが、その一方で毎度毎度、患者さんやご遺族の心情を思いやれと求められては、厳粛さの演技を要求されているようで長続きしない、と反発する思いもある。

病理解剖、心の問題は？

利と誠のはざまで揺れる

病理解剖の大部分は病院での病死体なので、法医学解剖のような深刻な社会性は少なく、その分、医学の専門的なことは別として、後々まで記憶に残る解剖例は少ない。慣れか驕りの故か、病理解剖を通じて頭の下がる思いの死に方・死なせ方に出会うことは稀であるが、忘れられないケースもある。意識は最後まではっきりしていながら、徐々に筋肉がやせ細り手足の自由が利かなくなり、言葉を発することもできず、最後は息をするのもままならない病気で亡くなった中年女性の記憶である。この患者さんは鼻腔栄養のチューブを引き抜こうとした動作を最後として、3年間全く身動きができない状態で亡くなった。人は寝返りできなくなると、数日後にはいとも簡単に褥瘡が生じるものであるが、私が驚いたのは、この女性に褥瘡が全くなかったことである。褥瘡のない長患いの男性患者は少なくないが、身動きできない妻の体位を3年間、毎日毎夜替え続ける夫は滅多にいるものではない。看護婦さんの労をねぎらい、敬意を表したことは勿論であるが、ご夫君の献身的な介護には頭が下がった。私にこのご夫君と同じような介護ができるという自信はない。それとともに、意識清明な状態で、ご夫君とはいえ、シモの世話まですっかり委ねざるを得なかったこの女性の苦悩も並大抵のものではなかっただろうと思う。

写真は近代病理学の重鎮だった Rudwig Aschoff の

Die Sektion ist das
Fundament
der Pathologie
Rudwig Aschoff

筆になる病理解剖の重要性を説いた言葉である。Die Sektion ist das Fundament der Medizin. とも言い換えられる。近年、病理解剖の意味合いは学部学生の教育から卒後教育に変わってきている。剖検率（その病院での全死亡者数中の病理解剖された患者数）が病院（特に内科系）の格を決める一つの要素となり、また特定機能病院の評価項目の一つになっている。それなのに病理解剖は診療報酬の対象ではないので、病院の医療収入にならないどころか、持ち出しとなる。そこで、赤字を生むような病理解剖に熱心な病院は勉強熱心な病院、自分たちの医療行為が適切だったのかと振り返る謙虚な姿勢の病院という評価になり、病客が増えるという理屈のはずである。しかし、風が吹いても桶屋が儲からないのが世の常である。「あの病院に行けば、死んだ後にもメスを入れられる」という噂で客足が遠のく。CT や MRI などの画像診断が普及するのに反比例して、病理解剖が全国的に減少している。CT や MRI などによって生前におおよそ診断が確定できるので、もはや病理解剖はお呼びでない、ということであろうが、本当の理由は案外、別にあるのかもしれない。患者さんの最後の病室が集中治療室となって、医師や看護婦の献身的な働きが見えなくなれば、それまで「あんなによくしてくれた先生の頼みだから、（病理解剖の依頼を）聞いてあげよう」と思っていたかもしれないご遺族も、そう簡単には頷いてくれない。もう一つ、病理解剖を通じて自分の治療の妥当性が判定されることを免れたいとの思いが主治医にあるのではないか、これが案外な理由かもしれないと想像する。邪推でなければ幸いであるが、「水は低きに、人は易きにつく」もの、務めを真面目に果たすのも考えもの、というのも一面の真理である。

海外出張記

AHA 第69回学術 会議に出席して

第3内科学助手

寺崎 文生

1996年11月10日から13日の4日間、米国 New Orleans で開催された米国心臓協会（AHA）の第69回学術総会に河村教授、弘田助教授、酒井助手、川上助手とともに参加いたしました。今年は約35,000人が参加、心血管病に関する学術情報が交換される一大イベントでありまし

3つの使命で“迷える子羊”

多くを学び、観光も楽しむ

た。私にとっては、1988年末から1991年初夏までの米国テキサス州立大学医学部への留学からの帰国以来、約5年ぶりの渡米、またAHA 総会参加となりました。AHA 総会全体の雰囲気は5年前とあまり変わりませんでした。日本人の参加者（採択演題数）が随分増えたように思います。本学会では心血管病に関するあらゆるテーマがとりあげられ一般演題数が約4300題（抄録集はA4版約900頁、重量1300gでその重いこと。）でした。内容に関しては、やはり分子生物学の分野の演題が増え、トランスジェニックマウスやノックアウトマウスなどの遺伝子操作動物を用いた研究や各種心血管病におけるアポトーシスの関与なども注目されています。また、以前は玉石混合で抄録だおれのもの（とても面白そうなので発表を聞いてみたら“しょうもない”演題）も多く、『AHAの抄録はハッターリだけや。』などと悪口も言っていたものですが、今回、私の関係する領域では石の演題は少なく勉強になることがとても多いと感じました。



AHA 第69回学術総会会場
(Ernest N. Morial Convention Center)

この度あらためて感じたことの一つは、個人あるいは一施設の中だけでの活動ではよい仕事はできないという

ことです。学内外、国内外で情報交換をはかり、共同研究も行うことが益々大切になると思われました。そのためには、当然自らもオリジナリティをもちつつレベルアップし他施設の一流の人達と対等に話ができるように（語学力も含めて）努力する必要があります。もう一つ感じたことは、今後自分はどのような道（スタンス）を歩くのがよいのか、歩きたいのかという自問です。教育、診療、研究と同時に三つの使命がある大学病院に在籍し現在いく分“悩める子羊？”になっております。



French Quarterにある Cafe Du Monde

話が硬くなりましたが、New Orleans では、もちろん少しだけ観光もし、French Quarter を散歩してCafe Du Monde でカフェオーレとドーナツも食べましたし、路上の画家と交渉して\$50の画を\$35で買ったりもしました。留学時代の上司や知人と再会し、また現在教室から米国留学中の先生方と一緒に食事をしたり楽しい時を過ごしました。結論として言えることは、今回の海外出張は私にとって極めて有意義であったということで、研究の御指導を受け演題提出の機会を与えていただいた先生方、出張中に仕事の代行をしていただいた先生方に厚く御礼申し上げます。また、今後はもう少し頻りに国際学会に出席したいと思っております。

主要会議とその主な日程

平成8年11月2日から平成9年1月31日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

【理事会】

(11月30日)

—審議事項—

1. 平成9年度予算編成に関する件
2. 日本私学振興財団借入金の特

—報告事項—

1. 平成8年度上半期収支状況報告
2. 病院西側増築工事状況報告

(12月10日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学附属看護専門学校学則中一部改正の件
2. 創立70周年記念事業準備委員会担当理事選出の件

(1月21日)

—審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学給与規則及び学校法人大阪医科大学通勤手当支給規程の一部を改正する件

—報告事項—

1. 創立70周年記念事業実行委員会の発足について
2. 盛学術振興基金運営委員会委員の変更について

【評議員会】

(11月30日)

—審議事項—

1. 平成9年度予算編成に関する件

—報告事項—

1. 平成8年度上半期収支状況報告

【教授会】

(11月6日)

1. 人事に関する件(学内講師の任用他)
2. 在学生の平成9年度授業時間割編成に関する件
3. 平成8年度奨学生(日本育英会、本学、仁泉会)の推薦に関する件
4. バイオハザード実験室管理運営委員会委員の選出に関する件

(11月20日)

1. 人事に関する件(耳鼻咽喉科診療教授の選考他)

(12月4日)

1. 人事に関する件(助教授の任用他)
2. 教授選考に関する件(微生物学、神経精神医学、一般・消化器外科学)

(12月18日)

1. 人事に関する件(耳鼻咽喉科診療教授の選考他)
2. 教授選考に関する件(神経精神医学、一般・消化器外科学)

3. 第4学年進級合格判定に関する件

(1月8日)

1. 人事に関する件(診療助教授の任用他)
2. 教育教授内規(案)に関する件

3. 第2学年進級合格判定に関する件

(1月22日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用他)
2. 教育教授内規(案)及び同細則に関する件
3. 教授選考に関する件(微生物学、一般・消化器外科学)
4. 本学学則の改正に関する件
5. 平成9年度入学試験に関する件

【大学院医学研究科委員会】

(12月4日)

1. 学位論文審査結果に基づく合(可)否決定に関する件

(1月8日)

1. 学位論文提出のための語学試験結果に関する件

(1月22日)

報告事項：平成9年度入学試験について

主な行事日程

(平成9年2月1日～平成9年4月30日)

2月1日から4月30日までの学内における主要な予定は次のとおりです。

2月1日(土)～2日(日)第5回医学教育ワークショップ(1月31日(金)から)

2日(日)看護専門学校第一看護学科入学試験

4日(火) 同上

5日(水)教授会、大学院医学研究科委員会

6日(木)大学院医学研究科入学試験(語学試験他)

7日(金) 同上(専攻科目試験)

18日(火)医学部入学試験(於：関西大学)理事会

19日(水)教授会、大学院医学研究科委員会

23日(日)看護婦国家試験

26日(水)最終講義(友田恒典中央検査部診療教授)

28日(金)看護専門学校卒業式

教授会、大学院医学研究科委員会

大学院医学研究科入試合格者発表

学部入試学科試験合格者発表

3月1日(土)大学院医学研究科入試合格者発表

5日(水)医学部入学試験(学科試験合格者)

面接・小論文・健康診断

第3学年春期休業

最終講義(中井益代微生物学教授)

〳 (富永通裕リハビリテーションセンター診療教授)

6日(木)臨時教授会

学部入試合格者発表

11日(火)理事会

12日(水)第4学年春期休業

教授会、大学院医学研究科委員会

13日(木)医学部入学手続締切

3月15日(土)～16日(日)第91回医師国家試験

第2学年春期休業

19日(水)最終講義(塚俊明神経精神医学教授)

〳 (岡島邦雄一般・消化器外科学教授)

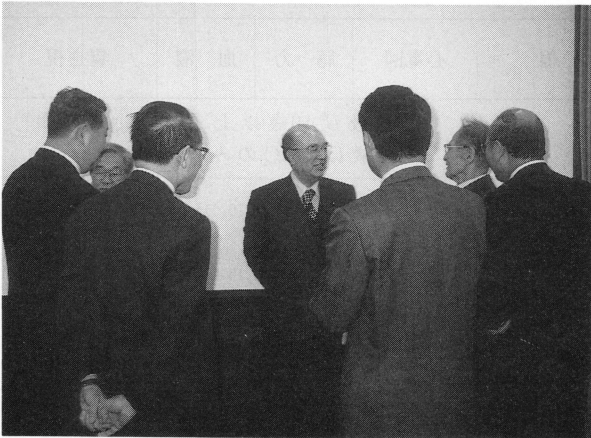
- 21日（金）第5学年春期休業
- 25日（火）医学部卒業証書・学位記授与式
- 26日（水）教授会、大学院医学研究科委員会
- 27日（木）評議員会
- 31日（月）理事会

看護婦医師国家試験発表

- 4月 8日（火）看護専門学校入学式
- 9日（水）教授会、大学院医学研究科委員会
- 10日（木）入学宣誓式（医学部・大学院医学研究科）
- 11日～13日（日）第1学年オリエンテーション
- 11日（金）第2・3・4・5学年授業開始
- 14日（月）第6学年臨床実習開始
- 15日（火）理事会
- 18日（金）第91回医師国家試験発表
- 23日（水）教授会、大学院医学研究科委員会
- 25日（金）臨床研修医オリエンテーション

年賀交歓会の開催

恒例の年賀交歓会が1月4日（土）午後1時から、第9会議室において理事長、学長、病院長をはじめ、教職員100余名が参加して開催されました。会の途中からは、中山太郎衆議院議員（27期卒）も参加され、大変なごやかな雰囲気の中で年賀の交歓が行われました。



—中山太郎衆議院議員を囲んで—

平成8年度大阪医科大学 関連病院長会議の開催

平成8年度大阪医科大学関連病院長会議が11月15日（金）午後3時から、第9会議室に於いて、藤本学長、佐々木病院長および各教授と、各関連病院長（58病院）の出席の下、下記の議題を中心に協議が行われました。（議題）

- ① 関連病院へのアンケート調査集計結果について
- ② 病診連携室の実績及び現況報告
（病診連携室の利用状況等）
- ③ 臨床研修プログラム（平成8年度）について

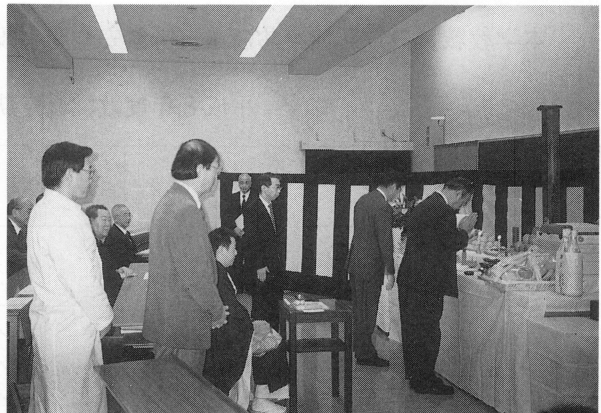


—関連病院長会議学長あいさつ—

平成8年度動物慰霊祭

本年度動物慰霊祭が関係者および教職員100名の参列のもと、下記のとおり執り行われました。

日時 平成8年12月9日（土）午後1時～2時
場所 講義実習棟・第一講義室



大阪医科大学スギ花粉情報センターについて

耳鼻咽喉科学教室教授

竹中 洋

2月の中旬になると年中行事のようにスギ花粉症が話題になってきます。5、6年前までは人口の10%程度が罹患すると考えられていましたが、私共の小学生と中学生の自由集団における経年的調査では、スギ・ヒノキ科花粉の飛散量に応じて変化があるものの25-40%が発症していると考えられます。この現象は近畿地方に限ったものではなく関東でも同様の報告がなされています。また、スギ花粉症の半数近くが何らかの他の花粉にもアレルギーを持っていることも判明しており、まさに花粉症対策は国民的課題となってきています。

花粉症をご承知のように、感作（IgE抗体の産生）が成立している個体が、再度当該する花粉抗原（アレルゲン）に曝されることによって、アレルギー炎症が惹き

れて発症します。したがってこれ以上罹患者を増やさな
 いたためには予防が重要です。ここでの予防には (1)新しい
 感作成立を防ぐ、と (2)既に感作が成立している場合は
 発症を防ぐ、加えて (3)花粉症の人ではシーズン中良
 い QOL を保つ3点を含みます。理論的にはそうなの
 ですが、実際は不用意にスギやヒノキ科花粉を浴びない
 ことに集約されます。そのためには花粉の飛散量や飛散
 期間が公にされることが必要で、欧米諸国では花粉情報
 が数十年の歴史をもっています。

昭和61年に京都で我が国最初のスギ花粉情報活動を開
 始して、早くも干支は一巡しました。その間京都府では
 府下全域をカバーする花粉情報ネットワークが平成4年
 から設立され、医療情報としての花粉情報が、広く一般
 市民から医師会、行政(保健所・教育委員会)で利用さ
 れています。残念ながら大阪府は府下一体の花粉観測シ
 ステムもなく空中飛散花粉の実態調査も殆どなされてい

ない状態です。

そこで、今年から下に挙げる12の耳鼻咽喉科学教室関
 連病院のご協力を得て、大阪府を中心に近畿中部での空
 中花粉観測網を作りました。これらの観測結果をもとに
 2月3日から、大阪医科大学スギ花粉情報を連日インター
 ネットで大阪医科大学ホームページに提供して参ります。
 次年度以降は空中花粉飛散花粉の傾向をもとに地域別に
 花粉情報を提供し、近い将来は通年予報体制に移行させ
 る予定です。

協力医療機関(大阪医科大学を入れると13施設)

大阪府：済生会中津病院、済生会吹田病院、枚方市民病
 院、第2東和会病院(高槻市)、小松病院(寝屋川市)、
 長吉総合病院(平野区)、田中病院(美原町)、敬仁会病
 院(守口市)、奈良県：生駒総合病院、京都府：ユニチ
 カ宇治病院、富士原病院(福知山市)

保健管理室からのお知らせ

教職員定期健康診断結果報告

本学教職員の定期健康診断を、労働安全衛生規則に基づいて下記の通り実施しました。

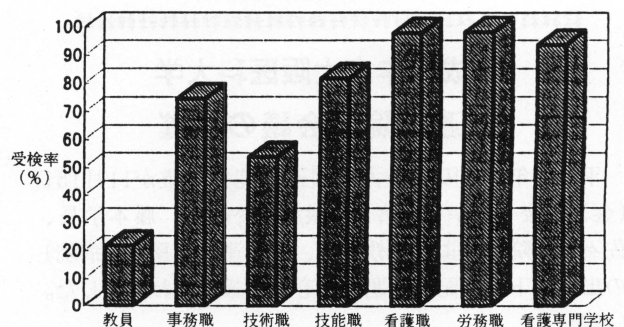
平成8年度教職員定期健康診断実施項目及び日程

検診項目	身体計測		血圧	尿	眼科	耳鼻科	胸部 X 線	心電図	聴力	血液	胃透視
	身長	体重									
対象者	全 員						35歳及び40歳以上 ※25歳はCBCのみ		40歳以上申し 込み者のみ		
日程	10/7(月) 10/9(水) 10/14(月) 10/16(水) 4日間				10/8(火) 10/15(火)~10/17(木) 10/22(火)~10/24(木) 6日間		10/15(火)~10/17(木) 10/22(火)~10/23(水) 5日間		10/15(火) ~ 10/17(木) 3日間		11/11(月) 11/18(月) 11/25(月) 3日間
場所	第10会議室				各科外来		放射線科	中央検査部・心電図室		第10会議室	放射線科外来

平成8年度健康診断項目別受検者数及び受検率

	受検者数	眼科	耳鼻科	検尿	レントゲン	血圧	血液	心電図	聴力
対象者数	1628	1628	1628	1628	1628	1628	696	636	636
受検者数	1180	1018	1010	1010	1006	994	508	455	444
受検率(%)	72.48	62.53	62.04	62.04	61.79	61.06	72.99	71.54	69.81
教員	71	12	12	14	9	15	50	49	48
事務職	169	133	130	128	141	128	86	87	83
技術職	125	67	61	72	70	71	85	76	73
技能職	45	41	41	39	37	40	24	22	22
看護職	696	692	694	684	676	667	198	155	153
労務職	59	58	57	58	58	58	55	56	55
看護学校	15	15	15	15	15	15	10	10	10

平成8年度職種別受検率



受検率を職種別に比較すると労務職、看護職が98%と高率を示しています。
職員に比べて教員の受検率が圧倒的に低かったが、昨年（平成7年度）は19.6%、今年（平成8年度）は21.9%と僅かに上回ってきています。

生活習慣病（今までは成人病と呼ばれていた）検診も昨年より上回っているが、これは個人通知及び検診項目も関係していると思われます。しかし定期健診は義務づけられているものでもあるので、自らが必要性を感じて足を運んで欲しいと思います。

受検率を上げる為には健診場所、時間、方法など考慮する必要があるのではとの意見もありますが、現状では附属病院にご協力を頂いている為、このシステムでやってゆかなければならない実情です。近い将来項目によっては徐々に変わってゆくものと思います。尚、他医療機関で健診を受けた場合は、データを保健管理室まで届けて下さい。（受検率に係わってきます。）

項目 年齢	対象者数	受検者数	受検率 (%)	結 果			
				異常なし (A)	要経過観察 (B)	要精密検査 (C)	治療中 (D)
25才	60	56	93.3	51	3	1	1
35・40才以上	636	452	71.1	272	99	74	7

今年から関係部署の協力によって（努力義務規定に準じて）25才を対象に貧血検査（CBCのみ）を実施しました。自覚症状のあるなしにかかわらず貧血を指摘される人は相当数のにぼります。食生活の偏りを改善することにより貧血は予防可能である為、特に女性は鉄欠乏性貧血が目立ちますので、一日に約10mgの鉄量を含む食物を摂取するよう心掛けて下さい。健診結果でC判定（要精密検査）の通知があった場合は必ず再検査又は、受診中であれば病状調査票を保健管理室まで提出して下さいようお願いいたします。

最後になりましたが、健康診断に快くご協力頂きました関係部署の方々へお礼申し上げます。有り難うございました。

お詫びと訂正

前回発行の30号に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正致します。

P 3（学則新旧対照表）

第47条 → 第40条

P 8（学位記授与者氏名）

乙第716 林 息 吹 → 林 伊 吹

乙第717 大 中 仁 彦 → 大 中 玄 彦

P 9（医学会秋季学術講演会）

レノイン酸 → レチノイン酸

大阪医科大学俳句会（十／十一／十二月）

鴨川は京のララバイ都鳥	塚本 務人
白磁より白き山茶花活けにけり	今井 雄介
七五三母も歩幅を合はせけり	古川 洋子
小春日を老婆の夏と言ふ異国	中川 一成
水嵩は溢れメナムの神無月	梶野 興三
進水やじやじや馬馴らしの冬の湖	梶野 香代子
三つ指のおたべ人形後の月	奥田 筆子
歌は語れ芝居は歌へ都鳥	吉田 孝江
柿照葉やまと海なく馴れの寿司	飯塚 久子
初紅葉夕陽が落せししづくかな	寺村 一美
熱源は丹田にある懐炉かな	山崎 隆司

たかつき散策

—八丁松原—



本学と国道170号線を挟んだ東側に「八丁松原」があります。

江戸時代から「陸の天の橋立」といわれたほどの風光明媚なところでありました。明治以後、国鉄（JR）や阪急電車、道路が東西に横切り、現在では高槻市の史蹟公園として、その面影を僅かにとどめるばかりとなっています。

「碑文」には次のように記されています。

「史蹟名勝八丁松原は慶安2年7月（1649年）高槻城主永井日向守直清が山城国勝龍寺より高槻城へ移封された。当時京口より西国街道に通ずる八丁の間この道路を新設し同時に松数百本が植えられ明治維新に至るまで城主永井氏代々により保護された…」



その昔、この道を永井侯の駕籠を中心に、参勤交替の列が毛槍を「下に下に」と、京口から八丁松原を通り西国街道へ向かって、浮世絵のごとくぬけていったことでしょう。現在は車やトラックが切れ目なく通り過ぎて、すべては時の流れの中に、残された松達が静かに空を仰いでいます。

大阪医科大学学報 第31号

発行年月日 平成9年2月1日

発行 学校法人 大阪医科大学

発行責任者 事務局長 多田 數義

編集・発行 総務部 庶務課